

授業科目	こどもの健康と安全 (B クラス)				単位	1		
履 修	選択	関連資格	保育士		ナンバリング	CH11416J		
開講年次	2	開講時期	前期	該当DP	DP2-1 DP5-3			
担当教員	藤田 稔子							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>実務家教員として特に疾病を持った子どもたちへの看護実践や、保健師および衛生管理者としての保健業務の経験を活かし、保育者として身につけておくべき子どもの健康および安全にかかわる知識技術について、実践的演習で授業を展開していきます。特に本科目は、既習「こどもの保健」で得た知識を実践学に展開する科目であり、保育にとって重要な要素である、乳幼児の生命保持と情緒の安定を図る養護に重要な技術ばかりです。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる</li> <li>2. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解できる</li> <li>3. こどもの体調不良等に対する適切な対応方法が身につく</li> <li>4. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策を具体的に考えられる</li> <li>5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応が身につく</li> <li>6. こどもの健康及び安全に関わる、組織的取り組みを踏まえつつ、保健計画が立案できる。また、その評価等の必要性が理解できる</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	40	0	0	0	10	50	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	40						40	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)					10	50	60	
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
根拠に基づく各種技術や応急処置法の基本的なスキルが身についている。また、関連ガイドラインを踏まえて園における保健計画が立案できる。				基本的な技術や応急処置法が指示通りできる。また、関連ガイドラインを踏まえて園における保健計画を考えなければならない事がわかる。				
授業計画								

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	テーマ:オリエンテーション・保健的観点を踏まえた保育環境と援助① 本科目の内容や授業の進め方について説明します。また、保育園における保健活動について理解を深め、日々の子どもの健康観察方法や健康診断に必要な知識と技術を演習を通して習得します。	講義 技術演習 (子どものフィジカルアセスメント、健康診断)	予習 1:シラバスを読むこと 予習 2:教科書 1-5、144-176 ページを読んでくること 復習:授業の最後に提示します	30
2	テーマ:保健的観点を踏まえた保育環境と援助② 乳幼児の養護の基本である発達段階や場面に応じた様々な「だっこ」、「おんぶ」の仕方を実技演習で習得します。また、妊婦体験を通して母親の理解を深めます。	技術演習 (だっこ、おんぶ、妊婦体験)	予習:教科書 12-36 ページを読んでくること 復習:授業の最後に提示します	30
3	テーマ:保育における健康と安全の管理① 保育現場における「衛生管理」について必要な知識と技術を技術演習を通して習得します。また、事故防止に対するトレーニング及び事故発生時の対応について学びます。	技術演習 (各種環境測定、事故防止に関するロールプレイ)	予習:教科書 1~8、37 ページを読んでくること 復習:授業の最後に提示します	30
4	テーマ:保育における健康と安全の管理② 保育現場における危機管理、特に防災訓練について解説し、日々の訓練や災害時の備えについて、井堀小学校及び到津小学校校区のハザードマップを用いてグループワークを展開します。	グループワーク (防災訓練、ハザードマップ用いた危機管理マニュアル作成)	予習:教科書 37-46 ページを読んでくること 復習:授業の最後に提示します	30
5	テーマ:子どもの体調不良等に対する適切な対応① 子どもに生じやすい体調不良に対する対処方法の知識と技術を演習を通して身に着けます。特に発熱、咳、けいれん、熱中症について取り上げます。	技術演習 (看護方法)	予習:教科書 47-72 を読んでくること 復習:授業の最後に提示します	30
6	テーマ:子どもの体調不良等に対する適切な対応② 子どもの薬の取り扱い及び投薬方法について知識と技術を演習を通して習得する。	技術演習 (投薬方法)	予習:教科書 73-77 を読んでくること 復習:授業の最後に提示します	30
7	テーマ:子どもの体調不良等に対する適切な対応③ 各種応急処置法を習得します。	技術演習 (応急処置法)	予習:教科書 78-103 を読んでくること 復習:授業の最後に提示します	30
8	テーマ:子どもの体調不良等に対する適切な対応④ 心肺蘇生及び AED の取り扱い、異物除去に関する技術、救急要請を習得します。	技術演習 (AED を含む小児一時救命処置法、異物除去)	予習:教科書 104-113 ページを読んでくること 復習:授業の最後に提示します	30
9	テーマ:子どもに罹りやすい感染症対策① 「保育所における感染症対策ガイドライン」「保育の場において血液を介して感染する病気を防止するためのガイドライン」について解説し、新しい生活様式に関連する子ども達への手洗いやマスク着用等の指導、嘔吐等の感染拡大を防ぐための処理方法等を演習で習得します。	技術演習 (感染予防に関する指導、嘔吐等の処理方法)	予習:教科書 114-143、13-17 ページを読んでくること 復習:授業の最後に提示します	30
10	テーマ:保育における保健的対応① 3歳未満児への生活援助に関わる技術を既習科目の内容を復習します。また、歯科衛生については、特にブラッシング指導ができるように知識と技術を身に着けます。	技術演習 (ブラッシング指導)	予習:教科書 175-184、189-207 ページを読んでくること 復習:授業の最後に提示します	30
11	テーマ:保育における保健的対応② 3歳未満児への対応として、特に清潔援助方法を演習によって身に着けます。	技術演習 (沐浴、臀部浴、ベビーマッサージ)	予習:教科書 185-188 ページを読んでくること	30

			復習:授業の最後に提示します	
12	<p>テーマ:保育における保健的対応③ 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」について解説し、アレルギー疾患をはじめ、慢性疾患の子ども達、障がいをもった子ども達について知識と必要な技術を演習によって身に着けます。障害をもった子どもでは、特に医療的ケアを必要とする子ども達へのケアの方法を解説します。さらに、食物アレルギーの子どもへと対応をロールプレイを介して理解を深めます。</p>	<p>技術演習 (エピペン) ロールプレイ (食物アレルギー対策)</p>	<p>予習:教科書 207-237 ページ を読んでくること 復習:授業の最後に提示します</p>	30
13	<p>テーマ:健康及び演算の管理の実施体制① 保育における保健活動に欠かせない連携・協働の組織的取り組みや虐待防止についてグループワークによって学びを深めます。また、保健計画に基づいた「保健だより」を作成します。</p>	<p>グループワーク 演習 (保健だより作成)</p>	<p>予習:教科書 238-250 ページ を読んでくること 復習:保健だよりを仕上げる</p>	30
14	<p>テーマ:健康及び安全の管理の実施体制②、まとめ 保健だよりを発表しあい、保健的視点を確認します。また、本科目を振り返り保育現場における保健活動について考察できるように知識と技術を整理します。</p>	<p>演習 (発表、グループ討議)</p>	<p>予習:保健だよりを仕上げる 復習:本科目を復習し定期試験に備える</p>	120
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	<p>「こどもの保健」、「保育内容・健康」、「こども家庭支援の心理学」、「特別支援教育論(障がい児保育含む)」、「障がい児保育演習」、「子育て支援」、「乳児保育 1・2」などの科目と関連が深いため、既習の科目は復習をしておいてください。同時開講の科目は、関連性を持って受講してください。</p>			

テキスト	これだけはおさえて！ 保育者のための子どもの健康と安全、鈴木美枝子(編著)、創成社、2020、2500 円+税 *シラバス中の「授業計画」の学習課題に記載している教科書のページは、この教科書を指します) 子どもの保健と安全 第2版、高内正子(編著)、教育情報出版、2020、2270+税 (←「こどもの保健」で使用した教科書)
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考にして欲しい雑誌:チャイルドヘルス他、保育や学校保健に関する雑誌
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	技術は、繰り返し練習することで身につくものです。授業時間外の練習を奨励します。また、申し出があれば、時間の許す限り何度でも技術指導は別途おこないます。遠慮なく申し出てください。 また、授業に際しては各種ガイドラインを基に現場を想定して演習をおこないます。常に最新の情報や社会の動き、また、流行している感染症等に関心を寄せて演習に臨んでください。 ノート作成は課しません。教科書に書き込む等各自の方法で演習の記録を残すようにしてください。
達成度評価に関するコメント	(1)定期試験:本科目に関連した知識が習得できているかを問うための「持ち込み不可」での試験を定期試験期間中に実施します。 (2)レポート外の提出物:・保健だより(個人での提出)…提出期限は第14回の授業とします (3)その他:・演習の取り組み度…各回の演習の取り組み度及び毎回課す振り返りシート ・自己評価…本科目に対する自己評価